

# ワールド・フィンテック革命ファンド (為替ヘッジあり/為替ヘッジなし)

## 運用報告書 (全体版) 第3期

(決算日 2019年12月10日)

(作成対象期間 2019年6月11日~2019年12月10日)

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信/内外/株式	
信託期間	約5年間(2018年6月11日~2023年6月9日)	
運用方針	信託財産の成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	為替ヘッジあり	イ. アクサIM・グローバル・フィンテック関連株式ファンド(為替ヘッジあり) (適格機関投資家専用)の受益証券 ロ. ダイワ・マネーストック・マザーファンドの受益証券
	為替ヘッジなし	イ. アクサIM・グローバル・フィンテック関連株式ファンド(為替ヘッジなし) (適格機関投資家専用)の受益証券 ロ. ダイワ・マネーストック・マザーファンドの受益証券
	ダイワ・マネーストック・マザーファンド	円建ての債券
組入制限	当ファンドの投資信託証券組入上限比率	無制限
	マザーファンドの株式組入上限比率	純資産総額の10%以下
分配方針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等とし、原則として、基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。	

### 受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、日本を含む世界のフィンテック関連企業の株式に投資し、値上がり益を追求することにより、信託財産の成長をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

## 大和投資信託

Daiwa Asset Management

大和証券投資信託委託株式会社  
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号  
お問い合わせ先(コールセンター)  
TEL 0120-106212  
(営業日の9:00~17:00)

<https://www.daiwa-am.co.jp/>

<2752>  
<2753>

為替ヘッジあり

設定以来の運用実績

決算期	基準価額			MSCI AC World指数 (配当込み、米ドルベース)		公社債 組入比率	投資信託 受益証券 組入比率	純資産 総額
	(分配落)	税込み 分配金	期騰落 中率	(参考指数)	期騰落 中率			
1 期末(2018年12月10日)	円 9,098	円 0	% △ 9.0	9,229	% △7.7	% -	% 99.0	百万円 13,775
2 期末(2019年 6 月10日)	10,363	50	14.5	10,074	9.2	-	99.6	14,378
3 期末(2019年12月10日)	10,798	150	5.6	10,943	8.6	-	99.1	9,894

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) MSCI AC World指数（配当込み、米ドルベース）は、MSCI Inc. の承諾を得て、MSCI AC World指数（配当込み、米ドルベース）の原データをもとに、当ファンド設定日を10,000として大和投資信託が計算したものです。MSCI AC World指数（配当込み、米ドルベース）は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。またMSCI Inc. は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

(注3) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

(注4) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

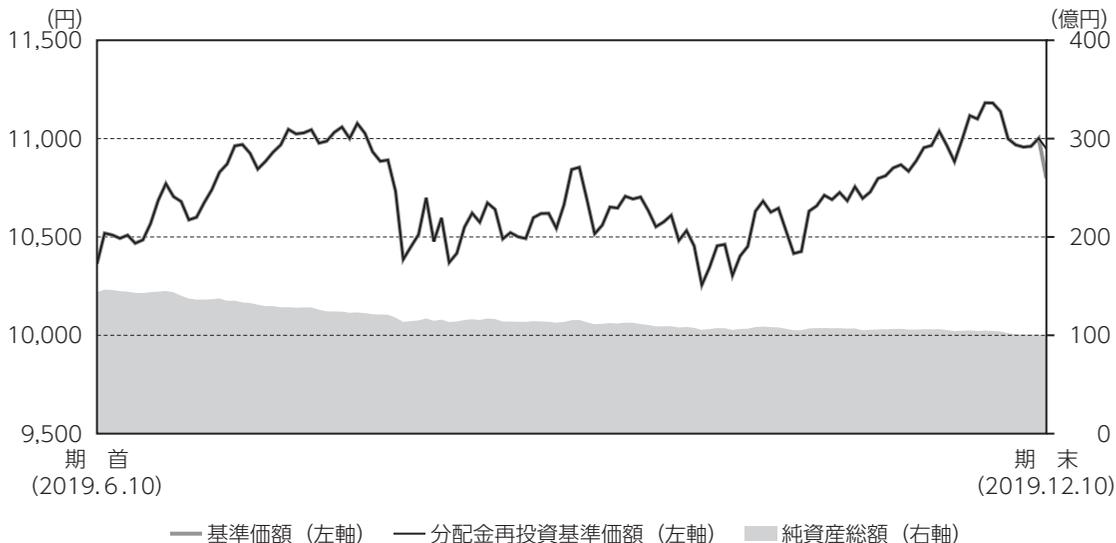
(注5) 公社債組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注6) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。



## 運用経過

### 基準価額等の推移について



\*分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

\*分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

#### ■基準価額・騰落率

期首：10,363円

期末：10,798円（分配金150円）

騰落率：5.6%（分配金込み）

#### ■基準価額の主な変動要因

当作成期は、主に米国やユーロ圏などの保有銘柄の株価が総じて上昇したことがプラス要因となり、基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

ワールド・フィンテック革命ファンド（為替ヘッジあり）

年 月 日	基 準 価 額		MSCI AC World 指数 (配当込み、米ドルベース)		公 社 債 組入比率	投資信託 受益証券 組入比率
		騰 落 率	(参考指数)	騰 落 率		
(期首) 2019年 6月10日	円 10,363	% -	10,074	% -	% -	% 99.6
6 月末	10,674	3.0	10,311	2.4	-	99.3
7 月末	10,933	5.5	10,469	3.9	-	99.0
8 月末	10,598	2.3	10,113	0.4	-	99.3
9 月末	10,482	1.1	10,353	2.8	-	99.1
10 月末	10,726	3.5	10,673	5.9	-	99.5
11 月末	11,181	7.9	10,975	8.9	-	99.6
(期末) 2019年12月10日	10,948	5.6	10,943	8.6	-	99.1

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

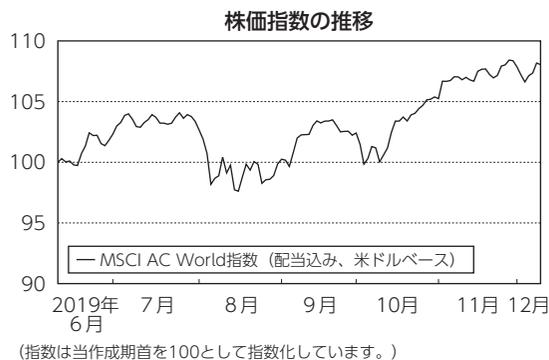
## 投資環境について

(2019.6.11~2019.12.10)

### ■グローバル株式市況

グローバル株式市況は上昇しました。

グローバル株式市場は、当作成期首より、米中貿易摩擦や世界経済に対する先行き不透明感から、変動の激しい展開となりました。2019年6月に行われた米中首脳会談において通商協議に進展が見られたことから、株式市場は上昇しました。8月に入りトランプ米国大統領が対中追加関税を9月に発動すると表明したことを受け、株式市場は下落に転じました。その後は、米中通商協議への思惑の変化により株式市場はレンジ取引となりましたが、10月には米中通商協議の部分合意等を受け、S & P 500指数は史上最高値を、日経平均株価は年初来高値を更新し、その後も当作成期末に向けて各国の株式市場は上昇基調となりました。F R B（米国連邦準備制度理事会）は景気鈍化の予防措置として段階的な利下げを行い、株式市場を支えました。欧州では、引き続き製造業の停滞が見受けられますが、E C B（欧州中央銀行）は金融緩和政策の継続を決定するなど、ユーロ圏の経済を支える姿勢を示しました。英国のE U（欧州連合）離脱問題の混乱が収束に向かったことも、欧州株式市場を押し上げました。



## 前作成期末における「今後の運用方針」

### ■当ファンド

フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジあり）の組入比率を、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。

※フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジあり）：アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジあり）（適格機関投資家専用）

### ■フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジあり）

当ファンドが投資する「アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド」は、テクノロジー企業と金融機関が協業して生まれるフィンテック市場の動きを捉え、3つの成長テーマであるキャッシュレス・ビジネス、フィンテック技術基盤、次世代金融リーダーに着目して、フィンテック企業に投資を行います。フィンテックは、金融業務の効率性を高めるだけのものではなく、最新のIT

## ワールド・フィンテック革命ファンド（為替ヘッジあり）

（情報技術）を用いた新たな金融サービスであり、サービスの広がりと共に市場が大きく拡大していく革命です。この動きはこれからさらに本格化し、10年以上続く成長市場になっていくと予想しています。当ファンドは、長期トレンドを捉える成長企業に投資することでファンドの成長をめざします。

また、保有する実質外貨建資産については為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行います。

### ■ダイワ・マネーストック・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

## ポートフォリオについて

(2019.6.11~2019.12.10)

### ■当ファンド

当ファンドは、フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジあり）とダイワ・マネーストック・マザーファンドへ投資するファンド・オブ・ファンズです。当作成期を通して、フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジあり）を高位に組み入れました。

### ■フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジあり）

当ファンドの主要投資対象である「アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド」は、テクノロジー企業と金融機関が協業して生まれるフィンテック市場の動きを捉え、3つの成長テーマであるキャッシュレス・ビジネス、フィンテック技術基盤、次世代金融リーダーに着目して、フィンテック企業に投資を行います。

当作成期中は、米国のビッグデータ・ソフトウェア会社であるタブロー・ソフトウェアを全売却しました。同社はセールスフォースが大幅なプレミアム価格で買収することを発表したため、利益確定のため全売却しました。また、英国のセキュリティ関連のソフトウェアを提供するソフォス・グループを全売却し、米国のセキュリティサービス会社ゼットスケラーを組み入れました。当作成期の後半には、ALDやDNBなど、金利の変動に感応度の高い銀行銘柄の組入比率を引き下げました。

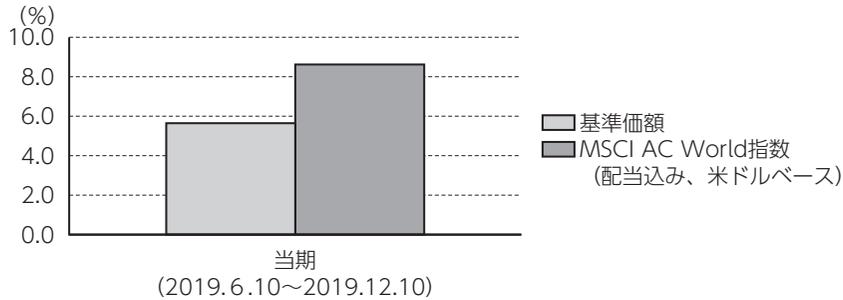
また、保有する実質外貨建資産については、為替変動リスクを低減するため為替ヘッジを行いました。

### ■ダイワ・マネーストック・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、コール・ローン等による運用を行いました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。  
以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



## 分配金について

当作成期の1万口当り分配金（税込み）は下記「分配原資の内訳（1万口当り）」の「当期分配金（税込み）」欄をご参照ください。

収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程（1万口当り）」をご参照ください。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

### ■分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	当 期	
	2019年6月11日 ～2019年12月10日	
<b>当期分配金（税込み）</b>	<b>(円)</b>	<b>150</b>
対基準価額比率	(%)	1.37
当期の収益	(円)	150
当期の収益以外	(円)	—
翌期繰越分配対象額	(円)	856

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

### ■収益分配金の計算過程（1万口当り）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	0.00円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	✓ 544.94
(c) 収益調整金	47.80
(d) 分配準備積立金	414.07
(e) 当期分配対象額(a + b + c + d)	1,006.82
(f) 分配金	150.00
(g) 翌期繰越分配対象額(e - f)	856.82

(注) ✓を付した該当項目から分配金を計上しています。



## 今後の運用方針

### ■当ファンド

フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジあり）の組入比率を、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。

### ■フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジあり）

当ファンドが投資する「アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド」は、テクノロジー企業と金融機関が協業して生まれるフィンテック市場の動きを捉え、3つの成長テーマであるキャッシュレス・ビジネス、フィンテック技術基盤、次世代金融リーダーに着目して、フィンテック企業に投資を行います。フィンテックは、金融業務の効率性を高めるだけのものではなく、最新のIT（情報技術）を用いた新たな金融サービスであり、サービスの広がりと共に市場が大きく拡大していく革命です。この動きはこれからさらに本格化し、10年以上続く成長市場になっていくと予想しています。当ファンドは、長期トレンドを捉える成長企業に投資することでファンドの成長をめざします。

また、保有する実質外貨建資産については為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行います。

### ■ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

## 1万口当りの費用の明細

項 目	当期 (2019.6.11~2019.12.10)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	65円	0.609%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は10,724円です。
（投 信 会 社）	(20)	(0.190)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
（販 売 会 社）	(44)	(0.408)	販売会社分は、運用報告書等各种書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受 託 銀 行）	(1)	(0.011)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	0	0.004	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
（監 査 費 用）	(0)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（そ の 他）	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	66	0.613	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

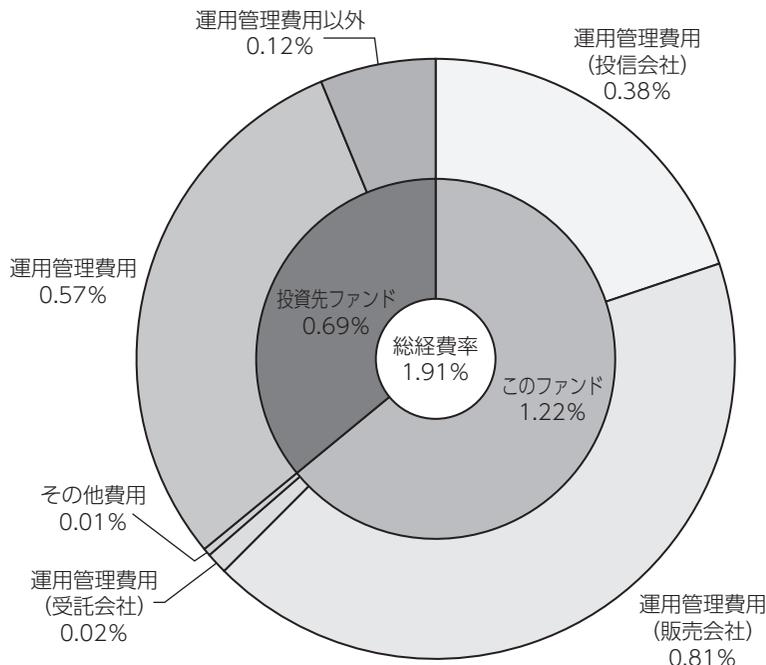
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.91%です。



総経費率 (①+②+③)	1.91%
①このファンドの費用の比率	1.22%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.57%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.12%

(注1) ①の費用は、1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 投資先ファンドとは、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

■売買および取引の状況

投資信託受益証券

（2019年6月11日から2019年12月10日まで）

国	買付	付		付	
		口数	金額	口数	金額
		千口	千円	千口	千円
国内	アクサIM・グローバル・フィンテック関連株式ファンド（ヘッジあり）（適格機関投資家専用）	-	-	4,842,169.35	5,320,000

（注1）金額は受渡し代金。  
（注2）金額の単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表

(1) ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	当 期 末		
	口数	評価額	比率
国内投資信託受益証券 アクサIM・グローバル・フィンテック関連株式ファンド（ヘッジあり）（適格機関投資家専用）	千口 8,760,657.633	千円 9,803,175	% 99.1

（注1）比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率。  
（注2）評価額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託残高

種類	当 期 末		
	口数	口数	評価額
	千口	千口	千円
ダイワ・マネースtock・マザーファンド	0	0	0

（注）単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2019年12月10日現在

項目	当 期 末	
	評価額	比率
	千円	%
投資信託受益証券	9,803,175	96.6
ダイワ・マネースtock・マザーファンド	0	0.0
コール・ローン等、その他	342,429	3.4
投資信託財産総額	10,145,606	100.0

（注）評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2019年12月10日現在

項目	当 期 末
(A) 資産	10,145,606,148円
コール・ローン等	342,429,258
投資信託受益証券(評価額)	9,803,175,891
ダイワ・マネースtock・マザーファンド(評価額)	999
(B) 負債	250,676,343
未払収益分配金	137,461,362
未払解約金	41,744,822
未払信託報酬	70,988,344
その他未払費用	481,815
(C) 純資産総額(A - B)	9,894,929,805
元本	9,164,090,849
次期繰越損益金	730,838,956
(D) 受益権総口数	9,164,090,849口
1万口当り基準価額(C / D)	10,798円

\* 期首における元本額は13,874,087,004円、当作成期間中における追加設定元本額は1,235,669,086円、同解約元本額は5,945,665,241円です。  
\* 当期末の計算口数当りの純資産額は10,798円です。

■損益の状況

当 期 自2019年6月11日 至2019年12月10日

項目	当 期
(A) 配当等収益	△ 54,443円
受取利息	15,670
支払利息	△ 70,113
(B) 有価証券売買損益	570,892,609
売買益	776,675,037
売買損	△ 205,782,428
(C) 信託報酬等	△ 71,474,559
(D) 当期損益金(A + B + C)	499,363,607
(E) 前期繰越損益金	379,435,233
(F) 追加信託差損益金 (配当等相当額)	△ 10,498,522 ( 43,809,732)
(売買損益相当額)	(△ 54,308,254)
(G) 合計(D + E + F)	868,300,318
(H) 収益分配金	△ 137,461,362
次期繰越損益金(G + H)	730,838,956
追加信託差損益金 (配当等相当額)	△ 10,498,522 ( 43,809,732)
(売買損益相当額)	(△ 54,308,254)
分配準備積立金	741,391,921
繰越損益金	△ 54,443

（注1）信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。  
（注2）追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。  
（注3）収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程（総額）」をご参照ください。

■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	0円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	499,389,010
(c) 収益調整金	43,809,732
(d) 分配準備積立金	379,464,273
(e) 当期分配対象額(a + b + c + d)	922,663,015
(f) 分配金	137,461,362
(g) 翌期繰越分配対象額(e - f)	785,201,653
(h) 受益権総口数	9,164,090,849口

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ	
1 万 口 当 り 分 配 金	150円

●<分配金再投資コース>をご利用の方の税引き分配金は、決算日現在の基準価額に基づいて自動的に再投資いたしました。

分配金の課税上の取扱いについて
<ul style="list-style-type: none"> <li>・分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。</li> <li>・分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。</li> <li>・分配落ち後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）、残りの額が普通分配金です。</li> <li>・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時における個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。</li> <li>・普通分配金については、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収が行なわれ、申告不要制度が適用されます。なお、確定申告を行ない、申告分離課税または総合課税を選択することもできます。</li> <li>・法人の受益者の場合、税率が異なります。</li> <li>・税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。くわしくは、販売会社にお問い合わせください。</li> <li>・課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。</li> </ul>

<p>当ファンドは少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」および未成年者少額投資非課税制度「ジュニアNISA」の適用対象です。非課税口座における取扱いについては販売会社にお問い合わせください。</p>
--

為替ヘッジなし

設定以来の運用実績

決算期	基準価額			MSCI AC World指数 (配当込み、円換算)		公社債 組入比率	投資信託 受益証券 組入比率	純資産 総額
	(分配落)	税込み 分配金	期騰落 中率	(参考指数)	期騰落 中率			
1 期末(2018年12月10日)	円 9,250	円 0	% △ 7.5	9,491	% △5.1	% -	% 99.0	百万円 82,127
2 期末(2019年 6 月10日)	10,279	50	11.7	9,992	5.3	-	99.3	83,535
3 期末(2019年12月10日)	10,777	150	6.3	10,869	8.8	-	98.6	61,678

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) MSCI AC World指数（配当込み、円換算）は、MSCI Inc. の承諾を得て、MSCI AC World指数（配当込み、米ドルベース）をもとに円換算し、当ファンド設定日を10,000として大和投資信託が計算したものです。MSCI AC World指数（配当込み、米ドルベース）は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。またMSCI Inc. は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

(注3) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

(注4) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

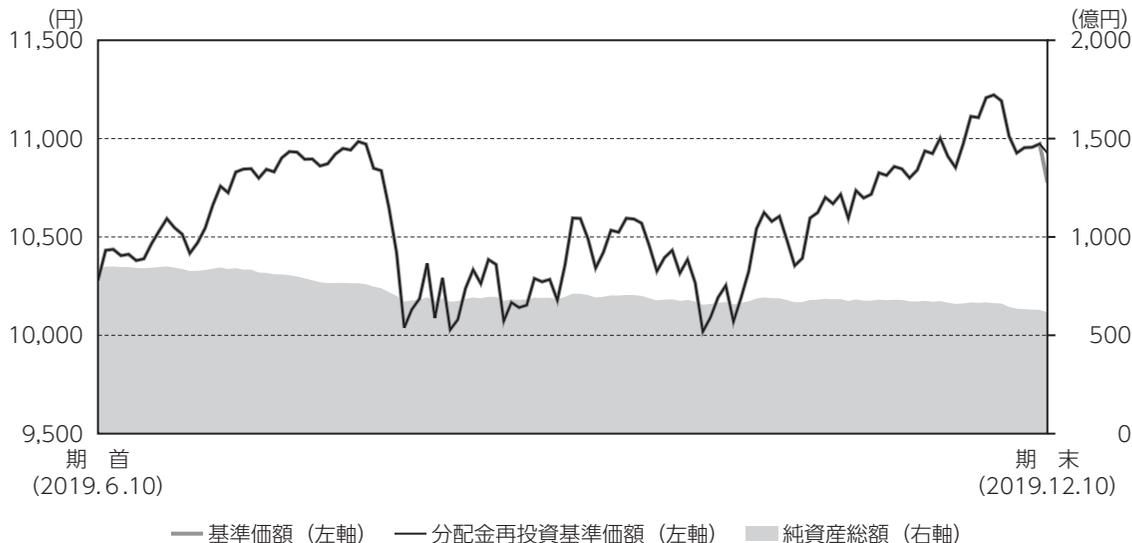
(注5) 公社債組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注6) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。



## 運用経過

### 基準価額等の推移について



\* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

\* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

#### ■ 基準価額・騰落率

期首：10,279円

期末：10,777円（分配金150円）

騰落率：6.3%（分配金込み）

#### ■ 基準価額の主な変動要因

当作成期は、主に米国やユーロ圏などの保有銘柄の株価が総じて上昇したことがプラス要因となり、基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

年 月 日	基 準 価 額		MSCI AC World 指数 (配当込み、円換算) (参考指数)		公 社 債 組入比率	投資信託 受益証券 組入比率
	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率		
(期首) 2019年 6月10日	円 10,279	% -	9,992	% -	% -	% 99.3
6 月末	10,545	2.6	10,159	1.7	-	99.3
7 月末	10,849	5.5	10,395	4.0	-	99.3
8 月末	10,289	0.1	9,840	△ 1.5	-	98.9
9 月末	10,316	0.4	10,212	2.2	-	99.4
10 月末	10,716	4.3	10,621	6.3	-	99.4
11 月末	11,222	9.2	10,990	10.0	-	99.7
(期末) 2019年12月10日	10,927	6.3	10,869	8.8	-	98.6

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

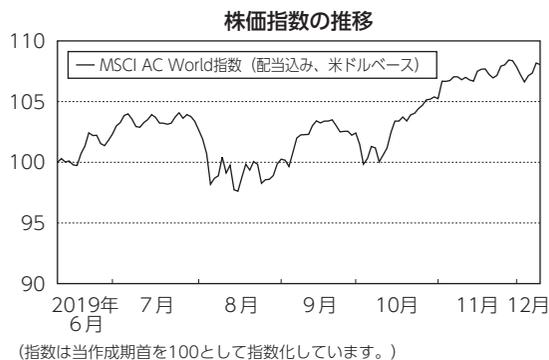
## 投資環境について

(2019.6.11~2019.12.10)

### ■グローバル株式市況

グローバル株式市況は上昇しました。

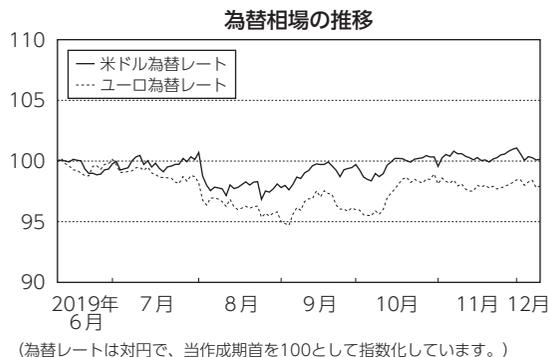
グローバル株式市場は、当作成期首より、米中貿易摩擦や世界経済に対する先行き不透明感から、変動の激しい展開となりました。2019年6月に行われた米中首脳会談において通商協議に進展が見られたことから、株式市場は上昇しました。8月に入りトランプ米国大統領が対中追加関税を9月に発動すると表明したことを受け、株式市場は下落に転じました。その後は、米中通商協議への思惑の変化により株式市場はレンジ取引となりましたが、10月には米中通商協議の部分合意等を受け、S & P 500指数は史上最高値を、日経平均株価は年初来高値を更新し、その後も当作成期末に向けて各国の株式市場は上昇基調となりました。F R B（米国連邦準備制度理事会）は景気鈍化の予防措置として段階的な利下げを行い、株式市場を支えました。欧州では、引き続き製造業の停滞が見受けられますが、E C B（欧州中央銀行）は金融緩和政策の継続を決定するなど、ユーロ圏の経済を支える姿勢を示しました。英国のE U（欧州連合）離脱問題の混乱が収束に向かったことも、欧州株式市場を押し上げました。



### ■為替相場

米ドル円はほぼ横ばい、ユーロ円はやや下落しました。

当作成期は、米中関係が悪化しリスク回避姿勢が高まると、安全資産と考えられている円に対する需要が強まったことにより総じて円高傾向となり、米中通商協議の進展期待が高まると総じて円安圧力が高まる傾向が繰り返されました。結果として、米ドル円はほぼ横ばい、ユーロ円はやや下落しました。



## 前作成期末における「今後の運用方針」

### ■当ファンド

フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジなし）の組入比率を、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。

※フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジなし）：アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）

### ■フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジなし）

当ファンドが投資する「アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド」は、テクノロジー企業と金融機関が協業して生まれるフィンテック市場の動きを捉え、3つの成長テーマであるキャッシュレス・ビジネス、フィンテック技術基盤、次世代金融リーダーに着目して、フィンテック企業に投資を行います。フィンテックは、金融業務の効率性を高めるだけのものではなく、最新のIT（情報技術）を用いた新たな金融サービスであり、サービスの広がりと共に市場が大きく拡大していく革命です。この動きはこれからさらに本格化し、10年以上続く成長市場になっていくと予想しています。当ファンドは、長期トレンドを捉える成長企業に投資することでファンドの成長をめざします。

### ■ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

## ポートフォリオについて

(2019.6.11~2019.12.10)

### ■当ファンド

当ファンドは、フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジなし）とダイワ・マネースtock・マザーファンドへ投資するファンド・オブ・ファンズです。当作成期を通して、フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジなし）を高位に組み入れました。

### ■フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジなし）

当ファンドの主要投資対象である「アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド」は、テクノロジー企業と金融機関が協業して生まれるフィンテック市場の動きを捉え、3つの成長テーマであるキャッシュレス・ビジネス、フィンテック技術基盤、次世代金融リーダーに着目して、フィンテック企業に投資を行います。

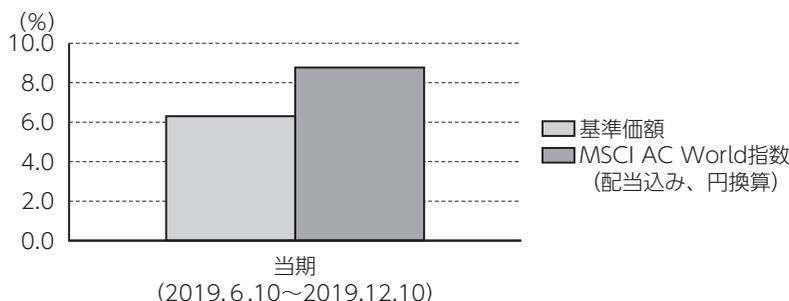
当作成期中は、米国のビックデータ・ソフトウェア会社であるタブロー・ソフトウェアを全売却しました。同社はセールスフォースが大幅なプレミアム価格で買収することを発表したため、利益確定のため全売却しました。また、英国のセキュリティ関連のソフトウェアを提供するソフォス・グループを全売却し、米国のセキュリティサービス会社ゼットスケラーを組み入れました。当作成期の後半には、ALDやDNBなど、金利の変動に感応度の高い銀行銘柄の組入比率を引き下げました。

### ■ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、コール・ローン等による運用を行いました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。  
以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



## 分配金について

当作成期の1万口当り分配金（税込み）は下記「分配原資の内訳（1万口当り）」の「当期分配金（税込み）」欄をご参照ください。

収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程（1万口当り）」をご参照ください。  
なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

### ■分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	当 期	
	2019年6月11日 ～2019年12月10日	
<b>当期分配金（税込み）</b>	<b>(円)</b>	<b>150</b>
対基準価額比率	(%)	1.37
当期の収益	(円)	150
当期の収益以外	(円)	—
翌期繰越分配対象額	(円)	784

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

### ■収益分配金の計算過程（1万口当り）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	0.00円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	✓ 619.76
(c) 収益調整金	30.54
(d) 分配準備積立金	283.92
(e) 当期分配対象額(a + b + c + d)	934.23
(f) 分配金	150.00
(g) 翌期繰越分配対象額(e - f)	784.23

(注) ✓を付した該当項目から分配金を計上しています。



## 今後の運用方針

### ■当ファンド

フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジなし）の組入比率を、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。

### ■フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジなし）

当ファンドが投資する「アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド」は、テクノロジー企業と金融機関が協業して生まれるフィンテック市場の動きを捉え、3つの成長テーマであるキャッシュレス・ビジネス、フィンテック技術基盤、次世代金融リーダーに着目して、フィンテック企業に投資を行います。フィンテックは、金融業務の効率性を高めるだけのものではなく、最新のIT（情報技術）を用いた新たな金融サービスであり、サービスの広がりと共に市場が大きく拡大していく革命です。この動きはこれからさらに本格化し、10年以上続く成長市場になっていくと予想しています。当ファンドは、長期トレンドを捉える成長企業に投資することでファンドの成長をめざします。

### ■ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

## 1万口当りの費用の明細

項 目	当期 (2019.6.11~2019.12.10)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	64円	0.609%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は10,587円です。
（投 信 会 社）	(20)	(0.190)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
（販 売 会 社）	(43)	(0.408)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受 託 銀 行）	(1)	(0.011)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	0	0.002	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
（監 査 費 用）	(0)	(0.002)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（そ の 他）	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	65	0.611	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

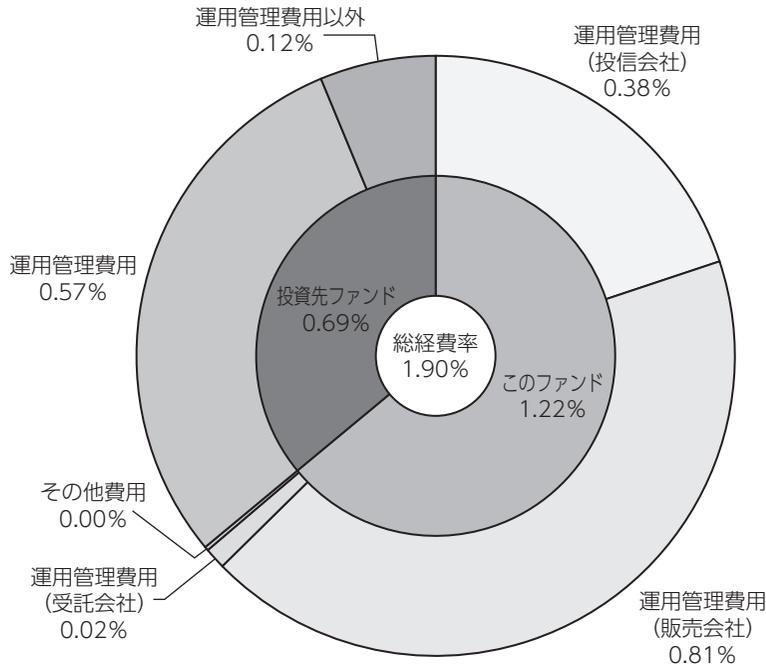
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直前の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.90%です。



総経費率 (①+②+③)	1.90%
①このファンドの費用の比率	1.22%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.57%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.12%

(注1) ①の費用は、1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 投資先ファンドとは、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

■売買および取引の状況

投資信託受益証券

（2019年6月11日から2019年12月10日まで）

国	買付	付		付	
		口数	金額	口数	金額
内	千口	千円	千口	千円	
	85,122.482	90,000	25,172,026.149	27,620,000	

(注1) 金額は受渡し代金。  
(注2) 金額の単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表

(1) ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	当 期 末		
	口数	評価額	比率
国内投資信託受益証券	千口	千円	%
アクサIM・グローバル・フィンテック関連株式ファンド(ヘッジなし)(適格機関投資家専用)	54,559,257.084	60,806,292	98.6

(注1) 比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率。  
(注2) 評価額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託残高

種類	当 期 末		
	口数	口数	評価額
	千口	千口	千円
ダイワ・マネースtock・マザーファンド	0	0	0

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2019年12月10日現在

項目	当 期 末		
	評価額	比率	率
	千円		%
投資信託受益証券	60,806,292		95.7
ダイワ・マネースtock・マザーファンド	0		0.0
コール・ローン等、その他	2,759,905		4.3
投資信託財産総額	63,566,198		100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2019年12月10日現在

項目	当 期 末
(A) 資産	63,566,198,992円
コール・ローン等	2,599,905,973
投資信託受益証券(評価額)	60,806,292,020
ダイワ・マネースtock・マザーファンド(評価額)	999
未収入金	160,000,000
(B) 負債	1,887,262,022
未払収益分配金	858,492,686
未払解約金	589,900,386
未払信託報酬	437,743,163
その他未払費用	1,125,787
(C) 純資産総額(A - B)	61,678,936,970
元本	57,232,845,741
次期繰越損益金	4,446,091,229
(D) 受益権総口数	57,232,845,741口
1万口当り基準価額(C/D)	10,777円

\* 期首における元本額は81,268,830,865円、当作成期中における追加設定元本額は7,130,827,135円、同解約元本額は31,166,812,259円です。

\* 当期末の計算口数当りの純資産額は10,777円です。

■損益の状況

当期 自2019年6月11日 至2019年12月10日

項目	当 期
(A) 配当等収益	△ 301,486円
受取利息	80,926
支払利息	△ 382,412
(B) 有価証券売買損益	3,986,180,680
売買益	5,258,651,089
売買損	△ 1,272,470,409
(C) 信託報酬等	△ 438,894,751
(D) 当期損益金(A + B + C)	3,546,984,443
(E) 前期繰越損益金	1,624,775,066
(F) 追加信託差損益金	132,824,406
(配当等相当額)	( 174,835,141)
(売買損益相当額)	(△ 42,010,735)
(G) 合計(D + E + F)	5,304,583,915
(H) 収益分配金	△ 858,492,686
次期繰越損益金(G + H)	4,446,091,229
追加信託差損益金	132,824,406
(配当等相当額)	( 174,835,141)
(売買損益相当額)	(△ 42,010,735)
分準準備積立金	4,313,568,309
繰越損益金	△ 301,486

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

(注3) 収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程(総額)」をご参照ください。

■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	0円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	3,547,099,778
(c) 収益調整金	174,835,141
(d) 分配準備積立金	1,624,961,217
(e) 当期分配対象額(a + b + c + d)	5,346,896,136
(f) 分配金	858,492,686
(g) 翌期繰越分配対象額(e - f)	4,488,403,450
(h) 受益権総口数	57,232,845,741口

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ	
1 万 口 当 り 分 配 金	150円

●<分配金再投資コース>をご利用の方の税引き分配金は、決算日現在の基準価額に基づいて自動的に再投資いたしました。

分配金の課税上の取扱いについて

- ・分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）、残りの額が普通分配金です。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時における個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。
- ・普通分配金については、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収が行なわれ、申告不要制度が適用されます。なお、確定申告を行ない、申告分離課税または総合課税を選択することもできます。
- ・法人の受益者の場合、税率が異なります。
- ・税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。くわしくは、販売会社にお問い合わせください。
- ・課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

当ファンドは少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」および未成年者少額投資非課税制度「ジュニアNISA」の適用対象です。非課税口座における取扱いについては販売会社にお問い合わせください。

**<補足情報>**

当ファンド（ワールド・フィンテック革命ファンド（為替ヘッジあり／為替ヘッジなし））が投資対象としている「ダイワ・マネースtock・マザーファンド」の決算日（2019年12月9日）と、当ファンドの決算日が異なっておりますので、当ファンドの決算日（2019年12月10日）現在におけるダイワ・マネースtock・マザーファンドの組入資産の内容等を掲載いたしました。

■ダイワ・マネースtock・マザーファンドの主要な売買銘柄

2019年6月11日～2019年12月10日における主要な売買銘柄はありません。

■組入資産明細表

2019年12月10日現在、有価証券等の組み入れはありません。

# ダイワ・マネースtock・マザーファンド

## 運用報告書 第10期 (決算日 2019年12月9日)

(作成対象期間 2018年12月11日～2019年12月9日)

ダイワ・マネースtock・マザーファンドの運用状況をご報告申し上げます。

### ★当ファンドの仕組みは次の通りです。

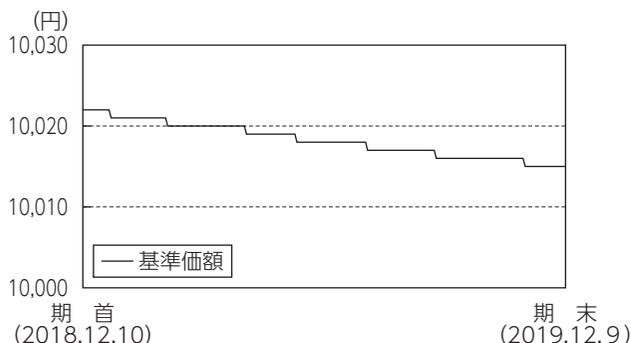
運用方針	安定した収益の確保をめざして安定運用を行ないます。
主要投資対象	円建ての債券
株式組入制限	純資産総額の10%以下

## 大和投資信託

Daiwa Asset Management

大和証券投資信託委託株式会社  
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号  
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

■当作成期中の基準価額と市況等の推移



年 月 日	基 準 価 額		公 社 債 組 入 比 率
	騰 落 率		
	円	%	%
(期首)2018年12月10日	10,022	-	-
12月末	10,022	0.0	-
2019年 1 月末	10,021	△0.0	-
2 月末	10,020	△0.0	-
3 月末	10,020	△0.0	-
4 月末	10,019	△0.0	-
5 月末	10,018	△0.0	-
6 月末	10,018	△0.0	-
7 月末	10,017	△0.0	-
8 月末	10,017	△0.0	-
9 月末	10,016	△0.1	-
10 月末	10,016	△0.1	-
11 月末	10,015	△0.1	-
(期末)2019年12月 9 日	10,015	△0.1	-

(注1) 騰落率は期首比。

(注2) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。

(注3) 当ファンドは、安定した収益の確保をめざして安定運用を行っており、ベンチマークおよび参考指数はありません。

《運用経過》

◆基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

期首：10,022円 期末：10,015円 騰落率：△0.1%

【基準価額の主な変動要因】

短期の国債やコール・ローン等の利回りがマイナス圏で推移したことなどから、基準価額は下落しました。

◆投資環境について

○国内短期金融市況

当作成期を通じて、日銀は長短金利操作付き量的・質的金融緩和を維持しました。この金融政策を背景に、国庫短期証券（3カ月物）の利回りおよび無担保コール翌日物金利はマイナス圏で推移しました。

◆前作成期末における「今後の運用方針」

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

◆ポートフォリオについて

流動性と資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行いました。

◆ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

《今後の運用方針》

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

■1万口当りの費用の明細

項 目	当 期
売買委託手数料	-円
有価証券取引税	-
その他費用 (その他)	1 (1)
合 計	1

(注1) 費用の項目および算出法については前掲の「1万口当りの費用の明細」の項目の概要をご参照ください。

(注2) 項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

■売買および取引の状況

公 社 債

(2018年12月11日から2019年12月9日まで)

		買 付 額	売 付 額
国		千円	千円
内	国債証券	250,003	(250,000)

(注1) 金額は受渡し代金（経過利子分は含まれておりません）。

(注2) ( )内は償還による減少分で、上段の数字には含まれておりません。

(注3) 単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄

公 社 債

(2018年12月11日から2019年12月9日まで)

当		期	
買	付	売	付
銘	柄 金 額	銘	柄 金 額
	千円		千円
801	国庫短期証券 2019/3/18 250,003		

(注1) 金額は受渡し代金（経過利子分は含まれておりません）。

(注2) 単位未満は切捨て。

■組入資産明細表

当作成期末における有価証券等の組み入れはありません。

■投資信託財産の構成

2019年12月9日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
コール・ローン等、その他	103,888,808	100.0
投資信託財産総額	103,888,808	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2019年12月9日現在

項 目	当 期 末
<b>(A) 資産</b>	<b>103,888,808,252円</b>
コール・ローン等	103,888,808,252
<b>(B) 負債</b>	<b>200,442,764</b>
未払解約金	200,000,000
その他未払費用	442,764
<b>(C) 純資産総額(A - B)</b>	<b>103,688,365,488</b>
元本	103,532,314,258
次期繰越損益金	156,051,230
<b>(D) 受益権総口数</b>	<b>103,532,314,258口</b>
1口当たり基準価額(C / D)	10,015円

\* 期首における元本額は40,969,233,796円、当作成期間中における追加設定元本額は198,584,973,661円、同解除元本額は136,021,893,199円です。

\* 当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額は、ロボット・テクノロジー関連株ファンド - ロボテック - 947,268円、ダイワ/ミレニアム・インド株ファンド - インドの匠 - 29,910,270円、ワールド・フィンテック革命ファンド (為替ヘッジあり) 998円、ワールド・フィンテック革命ファンド (為替ヘッジなし) 998円、新興国ソブリン・豪ドルファンド (毎月決算型) 999円、新興国ソブリン・ブラジルレアルファンド (毎月決算型) 999円、新興国ソブリン・ファンド (為替ヘッジあり/毎月決算型) 999円、U S短期ハイ・イールド社債ファンド (為替ヘッジあり/毎月決算型) 102,434円、ロボット・テクノロジー関連株ファンド - ロボテック - (為替ヘッジあり) 39,849円、ロボット・テクノロジー関連株ファンド (年1回決算型) - ロボテック (年1回) - (為替ヘッジあり) 3,985円、iFreeレバレッジ S & P 500 995,814円、iFreeレバレッジN A S D A Q 100 29,943,109円、米国4資産リスク分散ファンド (年2回決算型) 658,945円、ダイワ上場投信-日経平均レバレッジ・インデックス3,526,781,327円、ダイワ上場投信-日経平均ダブルインパース・インデックス6,932,995,956円、ダイワ上場投信-TOP 1 Xレバレッジ (2倍) 指数1,154,855,756円、ダイワ上場投信-TOP 1 Xダブルインパース (-2倍) 指数1,136,478,065円、ダイワ上場投信-日経平均インパース・インデックス46,620,451,844円、ダイワ上場投信-TOP 1 Xインパース (-1倍) 指数10,870,537,799円、ダイワ上場投信-J P X日経400レバレッジ・インデックス413,400,603円、ダイワ上場投信-J P X日経400インパース・インデックス811,328,174円、ダイワ上場投信-J P X日経400ダブルインパース・インデックス401,731,588円、ダイワ米国投資法人債ファンド (為替ヘッジあり) 2016-07 997円、ダイワ米国投資法人債ファンド (部分為替ヘッジあり) 2016-07 997円、ダイワ米国投資法人債ファンド (為替ヘッジあり) 2017-06 997円、ダイワ米国投資法人債ファンド (部分為替ヘッジあり) 2017-06 997円、ダイワ米国投資法人債ファンド (為替ヘッジあり) 2016-10 997円、ダイワ米国投資法人債ファンド (部分為替ヘッジあり) 2016-10 997円、先進国トータルリターン戦略ファンド (リスク抑制型/適格機関投資家専用) 6,289,387,976円、ダイワ日本株式ベア・ファンド (適格機関投資家専用) 10,596,789,950円、低リスク型アロケーションファンド (金利トレンド判断付き/適格機関投資家専用) 179,433,743円、ダイワ日本国債15-20年ラダー型ファンド・マネーポートフォリオ - S L T

リード-186,241,301円、ダイワ/モルガン・スタンレー新興4カ国不動産関連ファンド-成長の橋音 (つちおと) -5,020,480円、ダイワ/ハリス世界厳選株ファンド・マネー・ポートフォリオ339,840,055円、ダイワ・アセアン内需関連株ファンド・マネー・ポートフォリオ8,383,335円、低リスク型アロケーションファンド (適格機関投資家専用) 13,958,125,625円、通貨選択型ダイワ/ミレニアム・グローバル・グレートコンシューマー株ファンドII 豪ドル・コース (毎月分配型) 595,106円、通貨選択型ダイワ/ミレニアム・グローバル・グレートコンシューマー株ファンドII ブラジル・レアル・コース (毎月分配型) 987,373円、通貨選択型ダイワ/ミレニアム・グローバル・グレートコンシューマー株ファンドII 通貨セレクト・コース (毎月分配型) 494,581円、ダイワUS短期ハイ・イールド社債ファンド (為替ヘッジあり/年1回決算型) 9,957円、ダイワ米国/バンクローン・オープン (為替ヘッジあり) 997円、ダイワ米国/バンクローン・オープン (為替ヘッジなし) 997円、ダイワ新グローバル・ハイブリッド証券ファンド (為替ヘッジあり) 997円、ダイワ新グローバル・ハイブリッド証券ファンド (為替ヘッジなし) 997円、ダイワ/ミレニアム・細細並株ファンド9,958,176円、<奇数月定額払出型>ダイワ先進国リートα 為替ヘッジあり49,806円、<奇数月定額払出型>ダイワ先進国リートα 為替ヘッジなし49,806円、通貨選択型ダイワ/ミレニアム・グローバル好配当株α (毎月分配型) 米ドル・コース1,989,053円、通貨選択型ダイワ/ミレニアム・グローバル好配当株α (毎月分配型) ブラジル・レアル・コース2,978,118円、通貨選択型ダイワ/ミレニアム・グローバル好配当株α (毎月分配型) 通貨セレクト・コース1,691,241円、ロボット・テクノロジー関連株ファンド (年1回決算型) - ロボテック (年1回) -100,588円、ダイワ先進国リートα 為替ヘッジあり (毎月分配型) 399,083円、ダイワ先進国リートα 為替ヘッジなし (毎月分配型) 99,771円、通貨選択型ダイワ先進国リートα 円ヘッジコース (毎月分配型) 399,083円、通貨選択型ダイワ先進国リートα 通貨セレクトコース (毎月分配型) 99,771円、ダイワ/ミレニアム・グローバル・グレートコンシューマー株ファンド (為替ヘッジあり) 1,091,429円、ダイワ/ミレニアム・グローバル・グレートコンシューマー株ファンド (為替ヘッジなし) 315,004円、ダイワ/ミレニアム・アジア・セクターリーダー株ファンド10,009,811円、ダイワ日本株ストラテジーα (通貨選択型) - ジャパン・トリプルリターンズ - 日本円・コース (毎月分配型) 398,764円、ダイワ日本株ストラテジーα (通貨選択型) - ジャパン・トリプルリターンズ - 豪ドル・コース (毎月分配型) 99,691円、ダイワ日本株ストラテジーα (通貨選択型) - ジャパン・トリプルリターンズ - ブラジル・レアル・コース (毎月分配型) 398,764円、ダイワ日本株ストラテジーα (通貨選択型) - ジャパン・トリプルリターンズ - 米ドル・コース (毎月分配型) 398,764円、ダイワ日本株ストラテジーα (通貨選択型) - ジャパン・トリプルリターンズ - 通貨セレクト・コース (毎月分配型) 1,993,820円、通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド - イーグルアイII - 予想分配金提示型 日本円・コース300,273円、通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド - イーグルアイII - 予想分配金提示型 豪ドル・コース200,861円、通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド - イーグルアイII - 予想分配金提示型 ブラジル・レアル・コース300,273円、通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド - イーグルアイII - 予想分配金提示型 米ドル・コース1,999,177円、通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド - イーグルアイII - 予想分配金提示型 通貨セレクト・コース505,900円です。

\* 当期末の計算口数当りの純資産額は10,015円です。

■損益の状況

当期 自2018年12月11日 至2019年12月9日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△ 46,990,800円
受取利息	413,173
支払利息	△ 47,403,973
(B) その他費用	△ 10,190,474
(C) 当期損益金(A + B)	△ 57,181,274
(D) 前期繰越損益金	90,073,869
(E) 解約差損益金	△254,373,622
(F) 追加信託差損益金	377,532,257
(G) 合計(C + D + E + F)	156,051,230
次期繰越損益金(G)	156,051,230

(注1) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

	為替ヘッジなし	為替ヘッジあり
商品分類	追加型投信／海外／株式	
信託期間	約5年(2023年6月8日まで)	
運用方針	アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド(以下、「マザーファンド」)の受益証券を通じて、信託財産の成長を目指して運用を行います。	
主要投資対象	ペビーファンド	マザーファンドの受益証券
	マザーファンド	日本を含む世界の金融商品取引所に上場している株式(DR(預託証券))を含みます。以下同じ。)および株式関連証券
ペビーファンドの運用方法	1. 主として、マザーファンドの受益証券を通じて日本を含む世界のフィンテック関連企業の株式(DR(預託証券))を含みます。)に投資することで、信託財産の成長を目指して運用を行います。投資にあたっては、①キャッシュレス・ビジネス、②テクノロジーを積極的に取り込む金融ビジネス、③フィンテックの技術基盤の3つの成長テーマに着目します。 ※当ファンドにおいてフィンテック関連企業とは、多岐にわたる新たなテクノロジーを通じて、保険、資産運用、融資、決済などの既存の金融サービスに変革をもたらす企業をいいます。	2. マザーファンドの受益証券の組入比率は、原則として高位に維持します。
	3. 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。	3. 実質組入外貨建資産については、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行います。 ※一部の通貨について、為替ヘッジが困難、あるいは、ヘッジコストが過大と判断される際には、為替ヘッジを行わない、または他の通貨による代替ヘッジを行う場合があります。
マザーファンドの運用方法	4. 資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。	
	1. 主として、日本を含む世界のフィンテック関連企業の株式に投資することで、信託財産の成長を目指して運用を行います。投資にあたっては、①キャッシュレス・ビジネス、②テクノロジーを積極的に取り込む金融ビジネス、③フィンテックの技術基盤の3つの成長テーマに着目します。 ※当ファンドにおいてフィンテック関連企業とは、多岐にわたる新たなテクノロジーを通じて、保険、資産運用、融資、決済などの既存の金融サービスに変革をもたらす企業をいいます。	
組入制限	2. ポートフォリオの構築にあたっては、次の方針で行うことを基本とします。	
	イ) 日本を含む世界の金融商品取引所に上場している株式の中から、金融・経済情勢などを勘案した上で、フィンテック分野で長期にわたり成長の可能性を有する企業群を選定します。その中から、流動性の低い銘柄を除外したものを投資対象銘柄として選定します。	
	ロ) 投資対象銘柄の中から、詳細なファンダメンタル企業分析を行い、中長期的な収益成長性、フィンテック分野における優位性、新しい技術を開発または活用する能力、市場をリードする商品・サービスの有無、強力な経営陣などを考慮することで、組入候補銘柄を選定します。	
	ハ) 選定した組入候補銘柄から、株価の上昇期待度や下落の余地、ポートフォリオ全体のリスクなどを考慮して、確信度に基づいて組入比率を決定し、ポートフォリオを構築します。	
	3. 株式および株式関連証券の組入比率は、原則として高位に維持します。	
	4. 運用にあたっては、アクサ・インベストメント・マネージャーズ・パリに運用の指図に関する権限を委託します。	
配分方針	5. 外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。	
	6. 資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。	
	毎決算時に原則として以下の方針に基づき分配を行います。	
	①分配対象額の範囲内は繰越分を含めた利益、配当等収益と売買益(繰越欠損補填後、評価損益を含む)等の金額とします。	
②分配金額は委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。基準価額水準、市況動向等によっては分配を行わないこともあります。将来の配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。		
③留保益の運用については特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。		

# アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式ファンド (為替ヘッジなし/為替ヘッジあり) (適格機関投資家専用)

追加型投信／海外／株式

## 運用報告書 (全体版)

第3期(決算日 2019年11月11日)

### 受益者の皆様へ

平素は格別のお引き立てにあずかり厚く御礼申し上げます。

さて、「アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式ファンド(為替ヘッジなし/為替ヘッジあり)(適格機関投資家専用)」は、このたび第3期の決算を行いました。当ファンドは、アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンドの受益証券を通じて、日本を含む世界のフィンテック関連株式に投資することにより、信託財産の成長を目指します。当期につきましてもそれに沿った運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

引き続き一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社  
東京都港区白田1-17-3 NBFプラチナタワー14階  
<http://www.axa-im.co.jp/>

《当運用報告書の記載内容に関する問い合わせ先》  
電話番号：03-5447-3160  
受付時間：9：00～17：00(土日祭日を除く)

■設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額 (分配落)	税 分 配 金		株 式 組 入 比 率	純 資 産 額
		期 騰 落	中 率		
(設 定 日) 2018年6月12日	円 10,000	円 —	% —	% —	百万円 16,658
1期(2018年11月12日)	9,694	0	△3.1	93.8	80,568
2期(2019年5月10日)	10,385	0	7.1	96.6	83,100
3期(2019年11月11日)	11,018	0	6.1	97.0	67,521

(注1) 基準価額および分配金は1万円当たり。基準価額の騰落率は分配金込み。なお、当期は分配金はありません。

(注2) 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しております。

(注3) 当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ボトムアップの銘柄選定による運用を行うため、運用目標となるベンチマークや参考指数はありません。

■当期中の基準価額の推移

年 月 日	基 準 価 額	騰 落 率	株 式 組 入 比 率
5月末	10,284	△1.0	92.6
6月末	10,694	3.0	94.1
7月末	11,017	6.1	93.5
8月末	10,455	0.7	93.0
9月末	10,495	1.1	95.4
10月末	10,915	5.1	94.6
(期 末) 2019年11月11日	11,018	6.1	97.0

(注1) 基準価額は1万円当たり。基準価額の騰落率は分配金込み、騰落率は期首比です。なお、当期は分配金はありません。

(注2) 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しております。

(注3) 当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ボトムアップの銘柄選定による運用を行うため、運用目標となるベンチマークや参考指数はありません。

■設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額 (分配落)	税 分 配 金		株 組 入 比 率	純 資 産 額	
		税 分	配 金			騰 落 中 率
(設 定 日) 2018年6月12日	円 10,000		円 —	% —	% —	百万円 3,827
1期(2018年11月12日)	9,459		0	△ 5.4	94.4	13,824
2期(2019年5月10日)	10,401		0	10.0	94.5	14,586
3期(2019年11月11日)	11,039		0	6.1	97.3	10,516

(注1) 基準価額および分配金は1万円当たり。基準価額の騰落率は分配金込み。なお、当期は分配金はありません。

(注2) 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しております。

(注3) 当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ボトムアップの銘柄選定による運用を行うため、運用目標となるベンチマークや参考指数はありません。

■当期中の基準価額の推移

年 月 日	基 準 価 額	騰 落 率	株 組 入 比 率
(期 首) 2019年5月10日	円 10,401	% —	% 94.5
5月末	10,363	△0.4	89.9
6月末	10,848	4.3	93.1
7月末	11,125	7.0	92.5
8月末	10,794	3.8	91.7
9月末	10,686	2.7	95.0
10月末	10,947	5.2	94.8
(期 末) 2019年11月11日	11,039	6.1	97.3

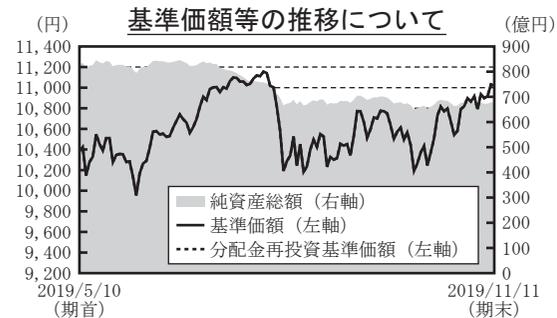
(注1) 基準価額は1万円当たり。基準価額の騰落率は分配金込み、騰落率は期首比です。なお、当期は分配金はありません。

(注2) 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しております。

(注3) 当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ボトムアップの銘柄選定による運用を行うため、運用目標となるベンチマークや参考指数はありません。

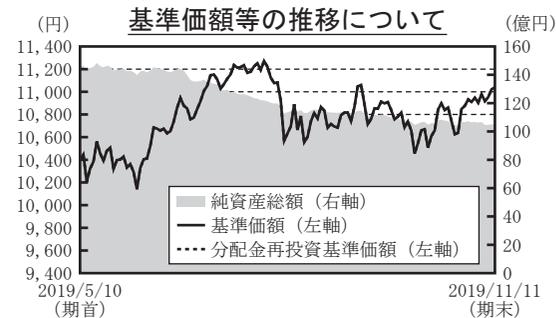
■当期の運用状況（2019年5月11日～2019年11月11日）

為替ヘッジなし



期首：10,385円  
 期末：11,018円（既払分配金（税込み）：0円）  
 騰落率：6.1%（分配金再投資ベース）

為替ヘッジあり



期首：10,401円  
 期末：11,039円（既払分配金（税込み）：0円）  
 騰落率：6.1%（分配金再投資ベース）

【基準価額の主な変動要因】

○為替ヘッジなし

当期は、ポンド安、ユーロ安がマイナス要因になったものの、主に米国、欧州など、日本以外の保有銘柄の株価が上昇したことがプラス要因となり、基準価額は値上がりしました。

○為替ヘッジあり

当期は、主に米国、欧州など、日本以外の保有銘柄の株価が上昇したことがプラス要因となり、基準価額は値上がりしました。

【投資環境について】

○グローバル株式市場

当期のグローバル金融市場は、米中貿易摩擦や世界経済に対する先行き不透明感から、変動の激しい展開となりました。5月は、米中貿易摩擦激化懸念が高まり、株式市場は急落しました。6月に米中首脳会談が行われ、米中関係に進展が見られたことを受け、株式市場は急回復を見せました。8月にトランプ大統領が対中追加関税第4弾を9月に発動すると表明したことを受け、株式市場は下落しました。しかし期末には、米中協議の部分合意等を受け、S & P 500指数は史上最高値を、日経平均株価は年初来高値を更新する等、各国の株式市場は上昇基調となりました。F R B（米国連邦準備制度理事会）は景気鈍化の予防措置として3度の利下げを行い、株式市場を支えました。欧州では引き続き製造業の停滞が見受けられますが、欧州中央銀行（ECB）は金融緩和政策の継続を決定する等、ユーロ圏の経済を支える姿勢を示しています。英国のEU（欧州連合）離脱問題も前進が見られ、欧州株式市場を押し上げました。

○為替市場

為替市場では、米ドル・円レートは期初は109円台から一時105円台までいったものの期末には109円台となり、ユーロ・円レートは期初の123円台から期末には120円台となりました。

当期は、米中関係が悪化しリスク回避姿勢が高まると、安全資産と考えられている円に対する需要が強まり円高となり、米中貿易摩擦懸念が緩和されると円安になるというサイクルで為替が変動しました。結果として、期末は期初と比較してドル円はほぼ同じ、ユーロは円に対してやや下落となりました。

【ポートフォリオについて】

○当ファンド

主要投資対象である「アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド」の受益証券を高位に組み入れました。

○アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド

当ファンドは、テクノロジー企業と金融機関が協業して生まれるフィンテック市場の動きを捉え、3つの成長テーマであるキャッシュレス・ビジネス、フィンテック技術基盤、次世代金融リーダーに着目して、フィンテック企業に投資を行います。フィンテックは、金融業務の効率性を高めるだけのものではなく、最新のIT技術を用いた新たな金融サービスであり、サービスの広がりと共に市場が大きく拡大していく革命です。この動きはこれからさらに本格化し、10年以上続く成長市場になっていくと予想しています。当ファンドは、長期トレンドを捉える成長企業に投資することでファンドの成長を目指します。企業規模の面ではペイパルやビザのような大型株からフィネコ・バンク、プルーフポイントなどの中小型株にも幅広く投資しています。地域別ではフィンテック関連企業の技術革新において先進的な地域である米国を中心に、グローバルに投資をしています。

期中は、米国のビックデータソフトウェア会社タブロー・ソフトウェアを全売却しました。同社はセールスフォースにより大幅なプレミアムの買取価格での買取が発表されたため、利益確定のため全売却しました。また、英国のセキュリティソフトウェアを提供するソフォスを全売却し、米国のセキュリティサービス会社ゼットスケーラーを組み入れました。期の後半には、ALDやDNB銀行など、金利の変動に感応度の高い銘柄のポジションを引き下げ、Eトレード・フィナンシャルの購入を開始しました。

【当ファンドのベンチマークの差異】

当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ファンダメンタル・リサーチに基づくボトムアップの銘柄選定にフォーカスした運用を行います。従って、運用目標となるベンチマークを設けておりません。

【分配金】

○為替ヘッジなし

当期は、基準価額の水準等を勘案し、収益の分配を見送らせていただきました。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用いたします。

分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

		第3期
		2019年5月11日～2019年11月11日
当期分配金		—
(対基準価額比率)		—%
当期の収益		—
当期の収益以外		—
翌期繰越分配対象額		1,088

- (注1) 「当期の収益」は「費用控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備設立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。
- (注2) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。
- (注3) 「当期の収益」および「当期の収益以外」の算出に当たっては、1万口当たりで小数点以下を切り捨てて表示していることから、合計した額が「当期分配金」と一致しない場合があります。

○為替ヘッジあり

当期は、基準価額の水準等を勘案し、収益の分配を見送らせていただきました。  
 なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用いたします。

分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

		第3期	
		2019年5月11日～2019年11月11日	
当期分配金		—	
	（対基準価額比率）	—%	
	当期の収益	—	
	当期の収益以外	—	
翌期繰越分配対象額		1,126	

（注1）「当期の収益」は「費用控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備設立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

（注2）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注3）「当期の収益」および「当期の収益以外」の算出に当たっては、1万口当たりで小数点以下を切り捨てて表示していることから、合計した額が「当期分配金」と一致しない場合があります。

■今後の運用方針

○当ファンド

主要投資対象である「アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド」の受益証券を高位に組み入れる方針です。

○アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド

当ファンドは、テクノロジー企業と金融機関が協業して生まれるフィンテック市場の動きを捉え、3つの成長テーマであるキャッシュレス・ビジネス、フィンテック技術基盤、次世代金融リーダーに着目して、フィンテック企業に投資を行います。フィンテックは、金融業務の効率性を高めるだけのものではなく、最新のIT技術を用いた新たな金融サービスであり、サービスの広がりと共に市場が大きく拡大していく革命です。この動きはこれからさらに本格化し、10年以上続く成長市場になっていくと予想しています。当ファンドは、長期トレンドを捉える成長企業に投資することでファンドの成長を目指します。

■ 1万口当たりの費用明細（2019年5月11日～2019年11月11日）

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	30円	0.285%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ※期中の平均基準価額は10,618円です。
（投 信 会 社）	(29)	(0.274)	投信会社分は、委託した資金の運用の対価
（販 売 会 社）	(0)	(0.000)	販売会社分は、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受 託 会 社）	(1)	(0.011)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
売 買 委 託 手 数 料	3	0.028	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（株 式）	(3)	(0.028)	
そ の 他 費 用	6	0.056	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
（監 査 費 用）	(0)	(0.001)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（そ の 他）	(6)	(0.055)	信託事務の処理にかかるその他の費用等
合 計	39	0.369	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注4) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

■ 売買及び取引の状況（2019年5月11日～2019年11月11日）

親投資信託受益証券の設定、解約状況

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
アクサ IM・グローバル・ フィンテック関連株式マザーファンド	—	—	18,921,415	20,640,000

(注) 単位未満は切捨て。

■株式売買比率（2019年5月11日～2019年11月11日）

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期	
	アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド	
(a) 期 中 の 株 式 売 買 金 額	45,531,926千円	
(b) 期 中 の 平 均 組 入 株 式 時 価 総 額	80,390,346千円	
(c) 売 買 高 比 率 (a) / (b)	0.56	

(注1) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等（2019年5月11日～2019年11月11日）

期中の利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託および投資法人に関する法律第11条第1項に規定されている利害関係人です。

■第一種金融商品取引業又は第二種金融商品取引業を兼務している投資委託業者の自己取引状況（2019年5月11日～2019年11月11日）

期中における当該事項はありません。

■組入資産の明細（2019年11月11日現在）

親投資信託残高

種 類	期 首（前期末）	当 期		末
	口 数	口 数	評 価	額
アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド	千口 79,873,888	千口 60,952,473		千円 67,468,292

(注) 口数・評価額の単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

（2019年11月11日現在）

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド	67,468,292	99.2
コール・ローン等、その他	515,903	0.8
投資信託財産総額	67,984,196	100.0

（注1）評価額の単位未満は切捨て。

（注2）アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンドにおいて、期末における外貨建て資産（74,733,652千円）の投資信託財産総額（78,730,286千円）に対する比率は、94.9%です。

（注3）外貨建て資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、期末における邦貨換算レートは1米ドル=109.16円、1オーストラリアドル=74.82円、1香港ドル=13.94円、1シンガポールドル=80.25円、1英ポンド=139.65円、1デンマーククローネ=16.09円、1ノルウェークローネ=11.93円、100インドネシアルピア=0.78円、1ユーロ=120.25円です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

（2019年11月11日現在）

項 目	当 期 末
(A) 資 産	67,984,196,266円
コール・ローン等	15,903,707
アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド(評価額)	67,468,292,559
未 収 入 金	500,000,000
(B) 負 債	462,458,176
未 払 解 約 金	249,999,999
未 払 信 託 報 酬	211,874,977
そ の 他 未 払 費 用	583,200
(C) 純 資 産 総 額 (A - B)	67,521,738,090
元 本	61,284,848,343
次 期 繰 越 損 益 金	6,236,889,747
(D) 受 益 権 総 口 数	61,284,848,343口
1万口当り基準価額(C/D)	11,018円

1. 期首元本額 80,020,094,875円  
 期中追加設定元本額 317,788,617円  
 期中一部解約元本額 19,053,035,149円  
 2. 1口当たり純資産額 11,018円

■損益の状況

当期（自 2019年5月11日 至 2019年11月11日）

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△ 55,746円
受 取 利 息	6,862
支 払 利 息	△ 62,608
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	4,090,021,904
売 買 益	4,942,692,326
売 買 損	△ 852,670,422
(C) 信 託 報 酬 等	△ 212,484,873
(D) 当 期 損 益 金 (A + B + C)	3,877,481,285
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	2,750,792,793
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	△ 391,384,331
(配 当 等 相 当 額)	( 41,754,289)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 433,138,620)
(G) 計 (D + E + F)	6,236,889,747
次 期 繰 越 損 益 金 (G)	6,236,889,747
追 加 信 託 差 損 益 金	△ 391,384,331
(配 当 等 相 当 額)	( 42,063,676)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 433,448,007)
分 配 準 備 積 立 金	6,628,274,078

（注1）損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

（注2）損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

（注3）損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

（注4）計算期間末における費用控除後の配当等収益（315,009,472円）、費用控除後の有価証券等損益額（3,562,471,813円）、信託約款に規定する収益調整金（42,063,676円）および分配準備積立金（2,750,792,793円）より分配対象収益は6,670,337,754円（10,000口当たり1,088.42円）ですが、当期に分配した金額はありません。

■ 1万口当たりの費用明細（2019年5月11日～2019年11月11日）

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	31円	0.285%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ※期中の平均基準価額は10,785円です。
（投 信 会 社）	(30)	(0.274)	投信会社分は、委託した資金の運用の対価
（販 売 会 社）	( 0)	(0.000)	販売会社分は、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受 託 会 社）	( 1)	(0.011)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
売 買 委 託 手 数 料	3	0.027	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（株 式）	( 3)	(0.027)	
そ の 他 費 用	6	0.060	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
（監 査 費 用）	( 1)	(0.005)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（そ の 他）	( 6)	(0.055)	信託事務の処理にかかるその他の費用等
合 計	40	0.372	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注4) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

■ 売買及び取引の状況（2019年5月11日～2019年11月11日）

(1) 為替先渡取引

種 類	当 期
	取 引 契 約 金 額
直 物 為 替 先 渡 取 引	百万円 36

(注) 単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託受益証券の設定、解約状況

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
アクサ IM・グローバル・ フィンテック関連株式マザーファンド	—	—	4,181,860	4,530,000

(注) 単位未満は切捨て。

■株式売買比率（2019年5月11日～2019年11月11日）

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
	アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド
(a) 期 中 の 株 式 売 買 金 額	45,531,926千円
(b) 期 中 の 平 均 組 入 株 式 時 価 総 額	80,390,346千円
(c) 売 買 高 比 率 (a) / (b)	0.56

(注1) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等（2019年5月11日～2019年11月11日）

期中の利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託および投資法人に関する法律第11条第1項に規定されている利害関係人です。

■第一種金融商品取引業又は第二種金融商品取引業を兼務している投資委託業者の自己取引状況（2019年5月11日～2019年11月11日）

期中における当該事項はありません。

■組入資産の明細（2019年11月11日現在）

(1) 為替先渡取引

種 類	取 引 契 約 残 高
	当 期 末 想 定 元 本 額
直 物 為 替 先 渡 取 引	百万円 △126

(注) 単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託残高

種 類	期 首 (前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド	千口 13,711,188	千口 9,529,327	千円 10,548,012

(注) 口数・評価額の単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

（2019年11月11日現在）

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド	10,548,012	99.5
コーラル・ローン等、その他	49,959	0.5
投資信託財産総額	10,597,972	100.0

（注1）評価額の単位未満は切捨て。

（注2）期末における外貨建て資産（244千円）の投資信託財産総額（10,597,972千円）に対する比率は、0.0%です。

アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンドにおいて、期末における外貨建て資産（74,733,652千円）の投資信託財産総額（78,730,286千円）に対する比率は、94.9%です。

（注3）外貨建て資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、期末における邦貨換算レートは1米ドル=109.16円、1オーストラリアドル=74.82円、1香港ドル=13.94円、1シンガポールドル=80.25円、1英ポンド=139.65円、1デンマーククローネ=16.09円、1ノルウェークローネ=11.93円、100インドネシアルピア=0.78円、1ユーロ=120.25円です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

（2019年11月11日現在）

項 目	当 期 末
(A) 資 産	20,727,722,742円
コーラル・ローン等	9,767,262
アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド(評価額)	10,548,012,894
未 収 入 金	10,169,942,586
(B) 負 債	10,211,335,623
未 払 金	10,175,771,540
未 払 信 託 報 酬	34,980,883
そ の 他 未 払 費 用	583,200
(C) 純 資 産 総 額 (A - B)	10,516,387,119
元 本	9,526,808,751
次 期 繰 越 損 益 金	989,578,368
(D) 受 益 権 総 口 数	9,526,808,751口
1万口当り基準価額(C/D)	11,039円

1. 期首元本額	14,024,146,517円
期中追加設定元本額	19,260,401円
期中一部解約元本額	4,516,598,167円
2. 1口当たり純資産額	1,1039円

■損益の状況

当期（自 2019年5月11日 至 2019年11月11日）

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△ 43,112円
受 取 利 息	8,224
支 払 利 息	△ 51,336
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	650,732,100
売 買 益 損	1,494,423,708
売 買 損 益	△ 843,691,608
(C) 先 物 取 引 等 損 益	△ 7,759,173
取 引 益 損	5,848,038
取 引 損 益	△ 13,607,211
(D) 信 託 報 酬 等	△ 35,588,264
(E) 当期損益金(A+B+C+D)	607,341,551
(F) 前期繰越損益金	461,567,465
(G) 追加信託差損益金	△ 79,330,648
(配当等相当額)	( 4,187,872)
(売買損益相当額)	(△ 83,518,520)
(H) 計 (E+F+G)	989,578,368
次期繰越損益金(H)	989,578,368
追加信託差損益金	△ 79,330,648
(配当等相当額)	( 4,214,353)
(売買損益相当額)	(△ 83,545,001)
分配準備積立金	1,068,909,016

（注1）損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

（注2）損益の状況の中で(D)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

（注3）損益の状況の中で(G)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

（注4）計算期間末における費用控除後の配当等収益（49,434,680円）、費用控除後の有価証券等損益額（557,906,871円）、信託約款に規定する収益調整金（4,214,353円）および分配準備積立金（461,567,465円）より分配対象収益は1,073,123,369円（10,000口当たり1,126.42円）ですが、当期に分配した金額はありません。

当マザーファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	信託財産の成長を目指して運用を行います。
主要投資対象	日本を含む世界の金融商品取引所に上場している株式（DR（預託証券）を含みます。以下同じ。）および株式関連証券
運用方法	<p>1. 主として、日本を含む世界のフィンテック関連企業の株式に投資することで、信託財産の成長を目指して運用を行います。投資にあたっては、①キャッシュレス・ビジネス、②テクノロジーを積極的に取り込む金融ビジネス、③フィンテックの技術基盤の3つの成長テーマに着目します。</p> <p>※当ファンドにおいてフィンテック関連企業とは、多岐にわたる新たなテクノロジーを通じて、保険、資産運用、融資、決済などの既存の金融サービスに変革をもたらす企業をいいます。</p> <p>2. ポートフォリオの構築にあたっては、次の方針で行うことを基本とします。</p> <p>イ) 日本を含む世界の金融商品取引所に上場している株式の中から、金融・経済情勢などを勘案した上で、フィンテック分野で長期にわたり成長の可能性を有する企業群を選定します。その中から、流動性の低い銘柄を除外したものを投資対象銘柄として選定します。</p> <p>ロ) 投資対象銘柄の中から、詳細なファンダメンタル企業分析を行い、中長期的な収益成長性、フィンテック分野における優位性、新しい技術を開発または活用する能力、市場をリードする商品・サービスの有無、強力な経営陣などを考慮することで、組入候補銘柄を選定します。</p> <p>ハ) 選定した組入候補銘柄から、株価の上昇期待度や下落の余地、ポートフォリオ全体のリスクなどを考慮して、確信度に基づいて組入比率を決定し、ポートフォリオを構築します。</p> <p>3. 株式および株式関連証券の組入比率は、原則として高位に維持します。</p> <p>4. 運用にあたっては、アクサ・インベストメント・マネージャーズ・パリに運用の指図に関する権限を委託します。</p> <p>5. 外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。</p> <p>6. 資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。</p>
株式組入制限	無制限

## アクサ IM・グローバル・ フィンテック関連株式マザーファンド

### 運用報告書

第1期（決算日：2019年5月10日）

（計算期間 2018年6月12日～2019年5月10日）

■設定以来の運用実績

決算期	基準	価額		株式 組入比率	純資産 総額
		騰落	中率		
(設定日) 2018年6月12日	円		%	%	百万円 20,485
1期(2019年5月10日)	10,402		4.0	96.6	97,351

(注1) 基準価額は1万円当たり。

(注2) 当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ボトムアップの銘柄選定による運用を行うため、運用目標となるベンチマークや参考指数はありません。

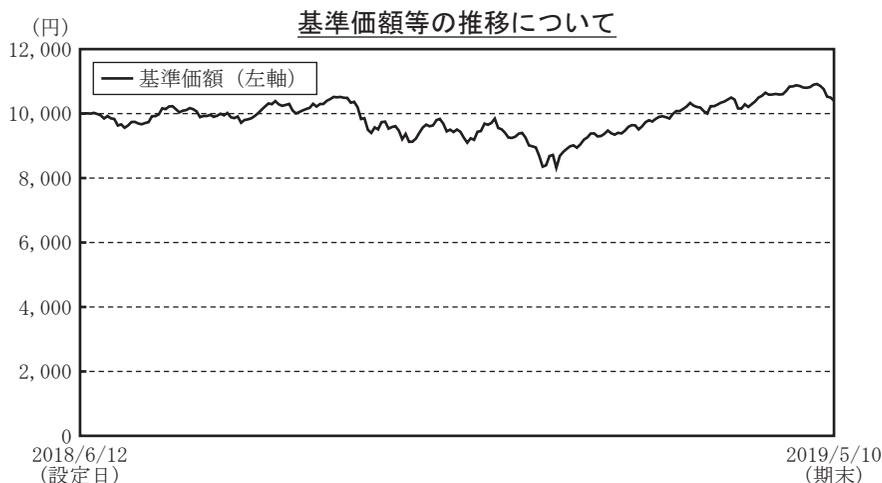
■当期中の基準価額の推移

年 月 日	基準	価額		株式 組入比率
		騰落	率	
(設定日) 2018年6月12日	円		%	%
6月末	10,000	△	3.7	95.3
7月末	9,629	△	1.1	95.3
8月末	9,891		2.9	94.6
9月末	10,289		5.2	94.2
10月末	10,518	△	7.8	95.3
11月末	9,224	△	3.5	95.0
12月末	8,714	△	12.9	95.0
2019年1月末	9,405	△	6.0	94.0
2月末	9,405		1.5	93.5
3月末	10,147		2.9	95.4
4月末	10,293		8.6	95.1
(期末) 2019年5月10日	10,860		4.0	96.6

(注1) 基準価額は1万円当たり。騰落率は設定日比です。

(注2) 当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ボトムアップの銘柄選定による運用を行うため、運用目標となるベンチマークや参考指数はありません。

■当期の運用状況（2018年6月12日～2019年5月10日）



【基準価額の主な変動要因】

当期は、欧州とアジア・オセアニアの保有銘柄の株価が下落したことや、円高がマイナス要因となったものの、主に米国と日本の保有銘柄の株価が上昇したことがプラス要因となり、基準価額は値上がりしました。

【投資環境について】

○グローバル株式市場

2018年6月のファンド設定当初は、グローバル株式市場は米中貿易摩擦の拡大や欧州でのポピュリズム政権の発足などが嫌気され、冴えない展開となりました。しかし7月に入るとそれらの懸念が幾分後退し、米国を中心に良好な経済環境が続く中、企業業績も好調さを維持していることから、株式市場は上昇に転じました。ところが、10月に入り、改めて米中貿易摩擦が企業業績の先行きに与える影響が懸念され、これまで市場の上昇を先導していたテクノロジー関連株が急落しました。その他にも、イタリアの2019年度予算案をめぐる財政規律に厳格な欧州連合（EU）との対立が深まり、英国ではEU離脱交渉が難航するなど、株式市場を押し下げる要因となりました。さらに12月に米国の要請でファーウェイCFOが逮捕されたことで米中摩擦の激化が懸念されたことや、中国や欧州などで景気減速を示唆する経済指標が発表されたこと、年末の休暇が近づいたことで売り先行となったことなど、複数の要因から大幅な下落となりました。しかし年が明けると、市場が経済成長停滞のリスクを意識した動きをしていることを背景に、FRB（米国連邦準備制度理事会）が一転ハト派的な姿勢に傾き、金利引き上げの言及を控えたことや、米中通商協議の進展への期待感から貿易摩擦緩和への楽観的な見方が広がったことなどから、グローバル株式市場はV字回復をしました。

○為替市場

為替市場では、米ドル・円レートは期初の110円台から期末には109円台、ユーロ・円レートは期初の129円台から期末には123円台となりました。

米ドルについては、期初は米朝首脳会談の開催で市場に安心感が広がったことから円に対して上昇となったものの、その後は日銀の金融緩和策縮小検討との観測記事を受けたことや、米中貿易戦争激化が懸念され、下落しました。9月には米国雇用統計の結果を受けて長期金利が上昇するとドル買い先行となり、ドルは円に対

して大幅に上昇しました。一方、ユーロは、欧州中銀理事会が利上げに慎重姿勢を示したと見られたことから円に対して下落から始まりました。その後、独政権の内部崩壊リスクやイタリアのユーロ離脱リスクが緩和したことで徐々にユーロは上昇しました。8月はイタリアの財政懸念などからユーロは一時大幅に下落したものの、懸念が回復したことでV字回復となりました。10月に入り、英国のEU離脱を巡る協議が難航したことや、イタリアの財政赤字を巡る政局の混乱等から、再びユーロは円に対して下落しました。

12月には世界経済の減速懸念が広がり、グローバル株式市場の下落に伴って、安全資産である円に需要が強まったことから、円が米ドルやユーロに対して上昇しました。年明け以降は、FRBや欧州中央銀行(ECB)がハト派的な姿勢を示唆したことや、米国の対中関税引き上げ延期から通商協議の進展への期待が広まったこと、米中などの良好な経済指標を受けてリスク志向が改善したことなどを受けて、米ドルやユーロに対して円は下落しました。結果として、期末は期初と比較してドル円、ユーロ円ともに下落となりました。

### 【ポートフォリオについて】

当ファンドは、テクノロジー企業と金融機関が協業して生まれるフィンテック市場の動きを捉え、3つの成長テーマであるキャッシュレス・ビジネス、フィンテック技術基盤、次世代金融リーダーに着目して、フィンテック企業に投資を行います。フィンテックは、金融業務の効率性を高めるだけのものではなく、最新のIT技術を用いた新たな金融サービスであり、サービスの広がりと共に市場が大きく拡大していく革命です。この動きはこれからさらに本格化し、10年以上続く成長市場になっていくと予想しています。当ファンドは、長期トレンドを捉える成長企業に投資することでファンドの成長を目指します。企業規模の面ではペイパルやビザのような大型株からフィネコ・バンク、ソフォスなどの中小型株にも幅広く投資しています。地域別ではフィンテック関連企業の技術革新において先進的な地域である米国を中心に、グローバルに投資をしています。

期中は、業界をリードする米国の決済サービス・プロバイダーのビザやワールドペイ、イタリアのデジタル総合商業銀行フィネコ・バンク、保険業界向けにビッグデータ分析ソリューションを提供する米国のベリスク・アナリティクス、データ保護ソリューションを提供する米国のプルーフポイント、金融機関に資産管理ソフトウェアとサービスを提供するエンベストネットを組み入れました。また、世界中の多くの業種で使用されている高度なデータ分析のプロバイダーであるエクスペリアンや、複雑で反復的な会計処理を自動化・管理するクラウドベースのソフトウェアソリューションを提供する米国のブラックライン社、オンライン・モバイル決済サービスを提供するバグセグロも新たに組み入れました。米国のスクエアについては、2018年9月に1株88ドルで全売却したものの、1株平均61ドルで買戻しを行い再びファンドに組み入れました。2019年に入ってからFRBの金融政策に対する慎重な姿勢を受け、主に金利上昇による利益を享受すると見られていた銘柄の比率を下げています。

### 【当ファンドのベンチマークとの差異】

当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ファンダメンタル・リサーチに基づくボトムアップの銘柄選定にフォーカスした運用を行います。従って、運用目標となるベンチマークを設けておりません。

### 【今後の運用方針】

当ファンドは、テクノロジー企業と金融機関が協業して生まれるフィンテック市場の動きを捉え、3つの成長テーマであるキャッシュレス・ビジネス、フィンテック技術基盤、次世代金融リーダーに着目して、フィンテック企業に投資を行います。フィンテックは、金融業務の効率性を高めるだけのものではなく、最新のIT技術を用いた新たな金融サービスであり、サービスの広がりと共に市場が大きく拡大していく革命です。この動きはこれからさらに本格化し、10年以上続く成長市場になっていくと予想しています。当ファンドは、長期トレンドを捉える成長企業に投資することでファンドの成長を目指します。

■ 1万口当たりの費用明細 (2018年6月12日～2019年5月10日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	12円 (12)	0.119% (0.119)	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
そ の 他 費 用 (そ の 他)	2 ( 2)	0.021 (0.021)	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
合 計	14	0.141	

(注1) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。期中の平均基準価額は9,862円です。

(注2) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■ 売買及び取引の状況 (2018年6月12日～2019年5月10日)

株 式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国内	日 本	千株 2,264 (69)	千円 3,852,156	千株 1,611	千円 1,685,860
		百株 64,801	千米ドル 600,815	百株 13,629	千米ドル 138,823
外 国	ア メ リ カ	74,225 (△63,542)	千オーストラリアドル 32,955 (△18,712)	8,942	千オーストラリアドル 3,603
	オ ー ス ト ラ リ ア	79,500	千香港ドル 554,130 (△11)	3,577	千香港ドル 24,422
	香 港	15,748	千シンガポールドル 41,337	2,290	千シンガポールドル 5,794
	シ ン ガ ポ ー ル	47,741	千英ポンド 39,242	5,023	千英ポンド 2,384
	イ ギ リ ス	577	千スイスフラン 8,645	577	千スイスフラン 9,382
	ス イ ス	1,490	千デンマーククローネ 78,424	383	千デンマーククローネ 22,291
	デ ン マ ー ク	26,852	千ノルウェークローネ 278,238	3,534	千ノルウェークローネ 30,295
	ノ ル ウ ェ ー	11,086	千スウェーデンクローナ 211,643	11,086	千スウェーデンクローナ 164,471
	ス ウ ェ ー デ ン	91,637	千インドネシアルピア 207,610,388	43,662	千インドネシアルピア 110,912,713
	イ ン ド ネ シ ア				

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
外	ポーランド	百株 7,503	千ポーランドズロチ 52,241	百株 6,820	千ポーランドズロチ 39,718
	ユーロ		千ユーロ		千ユーロ
国	オランダ	18,822	22,507	4,126	4,328
	フランス	13,530	38,522	695	2,263
	ドイツ	3,026	48,968	1,698	19,899
	イタリア	25,318	24,915	4,132	4,587

(注1) 金額は受け渡し代金。

(注2) ( )内は増資割当、株式転換・合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

(注3) 単位未満は切り捨て。

■株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合 (2018年6月12日～2019年5月10日)

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	147,944,561千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	82,248,644千円
(c) 売買高比率(a)/(b)	1.79

(注1) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注2) 金額の単位未満は切り捨て。

■主要な売買銘柄 (2018年6月12日～2019年5月10日)

銘 柄	買 付			売 付			
	株 数	金 額	平均単価	銘 柄	株 数	金 額	平均単価
PAYPAL HOLDINGS INC	千株 440	千円 4,238,229	円 9,620	WIRECARD AG	千株 163	千円 2,318,136	円 14,169
WORLDPAY INC-CLASS A	430	4,152,903	9,651	SQUARE INC - A	248	2,216,889	8,937
VISA INC-CLASS A SHARES	268	4,132,478	15,365	SWEDBANK AB-A SHARES	1,108	1,931,102	1,741
GLOBAL PAYMENTS INC	296	3,880,413	13,096	TD AMERITRADE HOLDING CORP	342	1,903,401	5,560
S&P GLOBAL INC	167	3,822,488	22,855	VERISK ANALYTICS INC	126	1,903,013	15,058
SQUARE INC - A	513	3,639,682	7,091	BLACKROCK INC	29	1,411,787	47,356
ALIBABA GROUP HOLDING-SP ADR	174	3,567,517	20,426	WORKDAY INC-CLASS A	75	1,401,808	18,476
PALO ALTO NETWORKS INC	152	3,565,657	23,367	ALIOR BANK SA	682	1,152,111	1,689
HDFC BANK LTD-ADR	304	3,410,591	11,185	TEMENOS GROUP AG-REG	57	1,080,431	18,702
WORLDLINE SA	541	3,372,685	6,231	三菱UFJフィナンシャル・グループ	1,520	1,075,508	707

(注1) 金額は受け渡し代金。

(注2) 単位未満は切り捨て。

■利害関係人との取引状況等（2018年6月12日～2019年5月10日）

期中の利害関係人との取引はありません。

（注）利害関係人とは、投資信託および投資法人に関する法律第11条第1項に規定されている利害関係人です。

■第一種金融商品取引業又は第二種金融商品取引業を兼務している投資委託業者の自己取引状況（2018年6月12日～2019年5月10日）

期中における当該事項はありません。

■組入資産の明細（2019年5月10日現在）

(1) 国内株式

銘柄	当 期 末	
	評 価	額
	株 数	金 額
情報・通信業（39.1%）	千株	千円
GMOペイメントゲートウェイ	120	962,400
証券、商品先物取引業（60.9%）		
SBIホールディングス	601	1,500,639
合 計	株 数 ・ 金 額	722 2,463,039
	銘柄 数 < 比 率 >	2 < 2.5% >

（注1）銘柄欄の（ ）内は国内株式の評価総額に対する各業種の比率。

（注2）合計欄の< >内は純資産総額に対する評価額の比率。

（注3）単位未満は切捨て。

(2) 外国株式

銘柄	株数	期末		業種等
		評価額		
		外貨建金額	邦貨換算金額	
(アメリカ)	百株	千米ドル	千円	
ALIBABA GROUP HOLDING-SP ADR	1,667	29,862	3,280,667	小売
AMERICAN EXPRESS COMPANY	1,669	19,580	2,151,157	各種金融
BLACKLINE INC	3,124	15,201	1,670,038	ソフトウェア・サービス
CITIGROUP INC.	2,175	14,713	1,616,389	銀行
ENVESTNET INC	2,351	15,846	1,740,866	ソフトウェア・サービス
FLEETCOR TECHNOLOGIES INC	759	20,210	2,220,322	ソフトウェア・サービス
GLOBAL PAYMENTS INC	2,753	40,217	4,418,289	ソフトウェア・サービス
GULDEWIRE SOFTWARE INC	962	9,944	1,092,554	ソフトウェア・サービス
HDFC BANK LTD-ADR	2,870	33,268	3,654,879	銀行
INTUIT INC	691	16,690	1,833,642	ソフトウェア・サービス
JPMORGAN CHASE & CO.	1,784	20,079	2,205,887	銀行
PALO ALTO NETWORKS INC	1,445	34,373	3,776,280	ソフトウェア・サービス
PAYPAL HOLDINGS INC	4,157	45,623	5,012,202	ソフトウェア・サービス
PROOFPPOINT INC	1,644	19,871	2,183,097	ソフトウェア・サービス
Q2 HOLDINGS INC	2,655	18,856	2,071,558	ソフトウェア・サービス
S&P GLOBAL INC	1,511	32,215	3,539,187	各種金融
SQUARE INC - A	2,652	17,609	1,934,541	ソフトウェア・サービス
TABLEAU SOFTWARE INC-CL A	1,187	14,602	1,604,255	ソフトウェア・サービス
VERISK ANALYTICS INC	1,012	14,220	1,562,271	商業サービス・用品
VISA INC-CLASS A SHARES	2,494	39,871	4,380,262	ソフトウェア・サービス
WORLDPAY INC-CLASS A	4,023	47,291	5,195,416	ソフトウェア・サービス
PAGSEGURO DIGITAL LTD-CL A	7,574	20,740	2,278,513	ソフトウェア・サービス
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	51,172 22	540,890 —	59,422,283 <61.0%>
(オーストラリア)			千オーストラリアドル	
AUSTRALIAN STOCK EXCHANGE	1,739	13,095	1,006,756	各種金融
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	1,739 1	13,095 —	1,006,756 <1.0%>
(香港)			千香港ドル	
PING AN INSURANCE GROUP CO-H	21,900	189,873	2,658,222	保険
TENCENT HOLDINGS LTD	4,327	162,522	2,275,309	メディア・娯楽
ZHONGAN ONLINE P&C INSURAN-H	49,696	121,258	1,697,615	保険
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	75,923 3	473,653 —	6,631,147 <6.8%>
(シンガポール)			千シンガポールドル	
DBS GROUP HOLDINGS LTD	13,458	35,798	2,884,267	銀行
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	13,458 1	35,798 —	2,884,267 <3.0%>
(イギリス)			千英ポンド	
EXPERIAN PLC	8,374	18,213	2,601,489	商業サービス・用品
SOPHOS GROUP PLC	34,343	11,639	1,662,423	ソフトウェア・サービス
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	42,718 2	29,853 —	4,263,913 <4.4%>

銘柄		当 期 末			業 種 等
		株 数	評 価 額		
			外貨建金額	邦貨換算金額	
(デンマーク) SIMCORP A/S		百株 1,107	千デンマーククローネ 68,535	千円 1,131,513	ソフトウェア・サービス
小 計	株数・金額 銘柄数比率	1,107 1	68,535 —	1,131,513 <1.2%>	
(ノルウェー) DNB ASA SBANKEN ASA		7,150 16,167	千ノルウェークローネ 109,326 133,380	1,368,770 1,669,922	銀行 銀行
小 計	株数・金額 銘柄数比率	23,317 2	242,707 —	3,038,692 <3.1%>	
(インドネシア) BANK CENTRAL ASIA TBK PT		47,975	千インドネシアルピア 135,049,625	1,026,377	銀行
小 計	株数・金額 銘柄数比率	47,975 1	135,049,625 —	1,026,377 <1.1%>	
(ポーランド) ALIOR BANK SA		682	千ポーランドズロチ 3,568	102,449	銀行
小 計	株数・金額 銘柄数比率	682 1	3,568 —	102,449 <0.1%>	
(オランダ) ING GROEP NV-CVA		14,695	千ユーロ 15,327	1,889,460	銀行
小 計	株数・金額 銘柄数比率	14,695 1	15,327 —	1,889,460 <1.9%>	
(フランス) ALD SA WORLDLINE SA		7,752 5,082	千ユーロ 9,535 25,817	1,175,498 3,182,582	運輸 ソフトウェア・サービス
小 計	株数・金額 銘柄数比率	12,835 2	35,353 —	4,358,081 <4.5%>	
(ドイツ) ALLIANZ SE		1,327	千ユーロ 26,400	3,254,415	保険
小 計	株数・金額 銘柄数比率	1,327 1	26,400 —	3,254,415 <3.3%>	
(イタリア) FINECOBANK SPA		21,186	千ユーロ 21,143	2,606,404	銀行
小 計	株数・金額 銘柄数比率	21,186 1	21,143 —	2,606,404 <2.7%>	
ユ ー ロ 計	株数・金額 銘柄数比率	50,045 5	98,226 —	12,108,362 <12.4%>	
合 計	株数・金額 銘柄数比率	308,139 39	— —	91,615,762 <94.1%>	

(注1) 邦貨換算金額は期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注2) 小計欄の< >内は純資産総額に対する各通貨別評価額の比率。

(注3) 合計欄の< >内は純資産総額に対する評価額の比率。

(注4) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

(2019年5月10日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
株 式	94,078,802	95.6
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	4,283,581	4.4
投 資 信 託 財 産 総 額	98,362,383	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 期末における外貨建て資産(95,055,617千円)の投資信託財産総額(98,362,383千円)に対する比率は、96.6%です。

(注3) 外貨建て資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、期末における邦貨換算レートは1米ドル=109.86円、1オーストラリアドル=76.88円、1香港ドル=14.00円、1シンガポールドル=80.57円、1英ポンド=142.83円、1デンマーククローネ=16.51円、1ノルウェークローネ=12.52円、100インドネシアルピア=0.76円、1ポーランドズロチ=28.71円、1ユーロ=123.27円です。

■資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2019年5月10日現在)

項 目	当 期 末
(A) 資 産	99,402,701,014円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	3,954,973,642
株 式(評価額)	94,078,802,638
未 収 入 金	1,076,332,639
未 収 配 当 金	292,592,095
(B) 負 債	2,051,441,833
未 払 金	1,040,346,257
未 払 解 約 金	1,011,000,000
そ の 他 未 払 費 用	95,576
(C) 純 資 産 総 額(A-B)	97,351,259,181
元 本	93,585,077,567
次 期 繰 越 損 益 金	3,766,181,614
(D) 受 益 権 総 口 数	93,585,077,567口
1万口当り基準価額(C/D)	10,402円

- 設定時元本額 20,485,000,000円  
期中追加設定元本額 86,292,847,274円  
期中一部解約元本額 13,192,769,707円
- 1口当たりの純資産額 1.0402円
- 当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額  
アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式ファンド(為替なし) 79,873,888,980円  
アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式ファンド(為替あり) 13,711,188,587円  
期末元本合計 93,585,077,567円

■損益の状況

(2018年6月12日～2019年5月10日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	1,051,682,090円
受 取 配 当 金	1,014,573,393
受 取 利 息	37,770,813
支 払 利 息	△ 662,116
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	4,402,243,173
売 買 益	12,153,879,290
売 買 損	△ 7,751,636,117
(C) そ の 他 費 用	△ 18,666,082
(D) 当 期 損 益 金(A+B+C)	5,435,259,181
(E) 解 約 差 損 益 金	△ 658,230,293
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	△ 1,010,847,274
(G) 計 (D+E+F)	3,766,181,614
次 期 繰 越 損 益 金(G)	3,766,181,614

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。